２０２５(令和７)年度

事　業　計　画　書

学校法人　修文学院

Ⅰ　当該年度の主な事業の目的・計画

1　修文大学・修文大学短期大学部

修文大学・修文大学短期大学部の中長期計画(2025 年度～2029 年度)参照

2　修文学院高等学校

修文学院高等学校中長期計画(令和 7 年度～令和 11 年度)参照

3　修文大学附属一宮幼稚園

令和 7 年度～11 年度　修文大学附属一宮幼稚園教育推進プラン参照

Ⅱ　施設・設備の整備

修文大学・修文大学短期大学部

内　　容	予算(単位:千円)
パソコン教室更新工事	２５，０００
7 号館 5 階女子トイレ改修工事	３，０００
8 号館講義室プロジェクター、デジタル化改修等	６，８９０
パラマウントベッド他教育研究用備品等	７，２４０
アップライトピアノ更新（10 台）	６，３６０
製菓室ＡＶシステム更新他教育研究用備品等	２，８６０
合　　計	５１，３５０

修文学院高等学校

内　　容	予算(単位:千円)
体育館空調設備整備工事	１８，７００
パソコン教室更新工事	３４，０９０
教員用パソコン整備	１４，０９３
e スポーツ部パソコン（10 台）整備他部活動備品	９，１００
運動場照明塔改修工事	５，０００
食物調理科オーブン、冷蔵庫、ピザ用窯等整備	４，５００
授業用動画作成機器、説明会使用機器等	７，１０７
合　　計	９２，５９０

修文大学附属一宮幼稚園

内　　容	予算(単位:千円)
園庭遊具等	１０，９３０

中長期事業計画

（２０２５年度 ～ ２０２９年度）

学校法人　修文学院

SHUBUN

修文大学・修文大学短期大学部の中長期計画（2025 年度～2029 年度）

近年の少子化など大学・短大を取り巻く環境が大変厳しくなっている。こうした状況の中で、本学の建学の精神、教育理念、教育方針を堅持しつつ、信頼される人材を育成するためには、教育研究の更なる質の向上等の課題に取り組んでいくことが求められる。 これらの課題を達成するためには、基本的な方向性を示し、計画的に実行していくことが必要であるので、以下のとおり中長期計画として定める。

1. 建学の精神

国家・社会に貢献できる人材の育成

2. 教育理念

人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる人材の育成

3. 教育方針

・学生の学びの質を向上させる
・地域社会での知の拠点としての大学の役割を強化する
・グローバル社会に対応した人材を育成する

【テーマ】

明るい未来を創る信頼の教育

【目標指標】

① 国家試験合格率・資格取得率向上
② 就職率向上
③ 収容定員充足率向上
④ 全学生 PC/タブレット授業
⑤ 学生の満足度向上
⑥ 教員の論文数増加
⑦ 科研費等取得件数増加
⑧ セミナー・イベント開催数増加
⑨ 海外研修参加数増加

I. 教育研究等の質の向上

1. 教育	
(1) 学生募集に関する目標	(1) 学生募集に関する目標を達成するための計画
・アドミッションポリシーの見直し ・入試に関する広報活動の強化 などにより、収容定員充足率の向上を目指す	1) アドミッション・ポリシーの見直しとそれに基づく多様な入学者選抜を実施する 2) 特徴的な教育プログラムのアピールなどオープンキャンパスを充実し、基礎学力の高い学生の入学を目指す 3)SNS を含めたデジタルコンテンツの充実などネット環境を活用した入学者選抜に関する広報戦略を強化する 4) 県内外の高校との連携(高大連携)を強化する ・修文キャンパスビジット、出前授業などを実施する 5) 修文学院高校からの内部進学選抜を推進する ・定期的に意見交換を実施して連携を強化する
(2) 教育内容に関する目標	(2) 教育内容に関する目標を達成するための計画
・カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの更なる改善 ・豊かな人間性を養う教育の充実 ・倫理教育の強化 ・コミュニケーション能力の向上 ・アクティブラーニングの推進 ・ICT 教育の強化 ・国家試験合格率の向上 ・資格・免許取得率の向上 ・学生代表の教育改善委員からの意見に基づく教育改善 ・FD/SD の推進 ・IR 本部の整備に伴う教育機能の強化 ・自己点検評価報告書の作成 などにより、信頼される人材を育成するための教育内容の充実を目指す	1) 本学の教育方針である「学生の学びの質を向上させる」に基づき教育内容を常に改善する ・3つのポリシーと教育目標、カリキュラムマップやシラバスとの関連について常に検証して改善に努める ・豊かな人間性を有する人材を養成するため、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの見直しを行う ・倫理教育を推進する ・コミュニケーション能力関連科目を充実する ・グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブラーニング関連科目を充実する ・自己学修時間のシラバス設定など自己学習を推進する ・社会人としてのマナー教育を行う 2) ICT 教育の強化により情報通信処理能力を育成する ・データサイエンス・AI 教育を強化する 3) 高い国家試験合格率を目指す ・学生へのきめ細やかな学習支援を行える体制のもと国家試験対策の推進により全員合格を目指す 4) 各種資格・免許取得率の向上を目指す 5) 学生代表の教育改善委員から出された意見・要望について検討を行い、教育を改善する 6) 教員の FD 活動の充実と、学生と指導教員双方への教育内容の評価フィードバックの更なる整備を行う ・学修ポートフォリオ、ティーチングポートフォリオを活用した教育評価のフィードバックを促進する

	・授業評価アンケート結果を参考にして教育を改善する ・授業評価アンケート及び普段の教育活動などからベストティーチャー賞受賞者を決定し教員を顕彰する ・職員の SD を推進し、教職協働と能力向上を図る 7） IR 本部を整備し、各種アンケート結果などを分析して教育改善の取り組みなどに応用する ・学修状況アンケート、卒業時アンケート、卒業後アンケート、就職先アンケートなどを分析して教育を改善する 8） 自己点検評価報告書を毎年作成し、教育研究等の活動を点検して改善する ・教育研究等の活動に関して外部評価委員からの意見を聴く
(3) 教育システムに関する目標	(3) 教育システムに関する目標を達成するための計画
・教育 DX 推進委員会によるデジタルシステム整備による教育機能強化 ・シミュレーション教育強化 ・提携大学、関連施設との連携強化 ・海外提携大学を通じての積極的な教育研究面の連携維持・強化 などにより、教育システムの充実を目指す	1）教育 DX 推進委員会を設置し、通信情報網整備により教育機能を強化する ・ICT を利用した教育の今後の発展需要を見据えた大量の情報処理能力を有した教育システムを整備する ・全学生1人1台の PC/タブレットを用いた授業を推進する 2） シミュレーション備品の活用による教育プログラムを充実する 3） 提携大学や関連施設との連携教育を強化する ・名古屋大学医学部、藤田医科大学、愛知医科大学との連携を強化する ・大学間協定による単位互換などを検討する ・臨地実習関連施設の臨地実習指導者との密接な情報交換を促進する 4） 海外提携大学との教育研究面での連携を強化する ・学生の海外研修などを実施する
(4) 学生学習支援に関する目標	(4) 学生学習支援に関する目標を達成するための計画
・学生に寄りそう支援指導体制の強化 ・リメディアル教育の充実 ・修文ピアサポート（修文ピアーズ）活動の充実	1）学生との信頼関係を基に学習支援体制の充実、学習能力向上を目指したきめ細やかな指導体制を提供する ・アドバイサー・ゼミや担任制度による学習支援を強化する ・退学者及び留年者の軽減対策や休学者の支援を充実する 2）基礎学力強化を目指したリメディアル教育のための基礎科目を充実する

・大学祭、スポーツフェティバル、オープンキャンパス、クラブ・同好会活動の充実 ・学外オリエンテーションの充実 ・奨学金など経済的支援の充実・強化 ・学生のボランティア活動などを積極的にサポートする体制の強化 ・健康管理支援や安全確保の強化 などにより、学生への学習支援の充実を目指す	・レポート作成などの文書作成能力を向上させる 3） 各学部学科に特徴的なピアサポート活動を実施するなど修文ピアーズの活動を充実する ・学修上の相談、知識・技術等の学修支援、授業の補助業務などを推進する ・大学祭、スポーツフェステイバル、オープンキャンパスなどの大学行事への参加を推進する 4） 学生の大学祭やスポーツフェスティバル、オープンキャンパス、クラブ・同好会などへの参加を奨励する 5） 学外オリエンテーションを充実して学生同士の懇親と学生と教員との信頼関係を強化する 6） 奨学金など経済的支援を必要とする学生へのサポートを充実する 7） 学生のボランティア活動、障がい者支援を積極的にサポートする体制を強化する 8） 学生の健康管理支援や安全確保の強化を行う ・特に実習時の安全対策及び感染予防策を強化する ・予防接種など感染管理への取り組みを強化する ・生活面での安全確保、事故防止、防災対策への意識を高めるように指導する
（5） 就職支援に関する目標	（5） 就職支援に関する目標を達成するための計画
・就職支援・キャリア支援体制の強化 ・卒業後のキャリア支援体制の推進 ・卒業生による在校生サポート体制や就職支援体制の充実（同窓会の強化） などにより、学生への就職支援の充実を目指す	1） 就職支援・キャリア支援体制を強化し、就職率を向上させる ・臨地実習、インターンシップにより現場教育を体験させる ・各職業の仕事内容を理解させる 2） 卒業後のキャリア支援体制を推進する ・卒業後の悩みサポート・ホットラインを整備する 3） 卒業生による支援ネットワークを確立して在校生サポート体制や就職支援・キャリア支援を推進する ・同窓会組織を強化する
2. 研究	
(6) 研究内容に関する目標	(6) 研究内容に関する目標を達成するための計画
・本学で特徴ある分野のプロジェクト研究や学際的共同研究の推進	1） 本学の教育方針である「地域社会での知の拠点としての大学の役割を強化する」ため、特徴ある研究を推進さ

・研究内容の国際化の推進 ・研究成果の対外的発信力の増強 などにより、研究成果の向上を目指す	せ、独創的で社会的要請の高いプロジェクト研究や地域研究などに重点的に取り組む ・国際的な研究への参加や海外の大学・研究機関との共同研究を推進する 2）学会・論文発表など学問的発信力を強化する ・査読付き研究論文数を増やす ・英文の研究論文数を増やす ・学会などからの受賞者数を増やす ・機関リポジトリの整備により研究成果を公表する ・研究成果のメディアへの発信など広報活動を強化する ・学会の学術集会を開催する
(7) 研究実施体制に関する目標	(7) 研究実施体制に関する目標を達成するための計画
・医用質量分析センターにおける研究の推進 ・外部資金獲得推進に向けての組織的支援 ・教員研究評価やインセンティブ制度など研究成果の評価の重視 ・研究費管理と研究倫理教育の FD 推進 などにより、研究実施体制の充実を目指す	1）医用質量分析センターを中心にして質量分析を用いた教育研究を推進する 2） 研究助成情報の発信体制強化など教員による科研費を中心とした競争的研究費獲得を促進する 3）研究成果や外部資金獲得などを考慮した教員評価やインセンティブ制度を設けるなど研究成果の評価を重視する 4）研究活動の不正行為防止のための研究費管理体制を強化する ・不正を未然に防止するための管理体制の充実を図る ・研究倫理委員会による研究倫理に関する FD 活動を強化する
3. 地域・社会貢献	
(8) 地域・社会貢献に関する目標	(8) 地域・社会貢献に関する目標を達成するための計画
・地域と密着した活動を通じて地域社会の中核教育研究拠点としての貢献 ・社会貢献活動への取り組みの継続と貢献の推進 などにより、地域連携と社会貢献の推進を目指す	1） 本学の建学の精神である「国家・社会に貢献できる人材の育成」の実現のため、一宮市などと協働して地域社会の教育研究の拠点として貢献する ・市民大学公開講座やセミナー、イベントなどを通じ、地域住民や地域関係者の生涯教育の拠点としての機能を果たす 2） 地域における医療・教育・企業など関係機関と更なる連携により地域社会の活性化に寄与する

	3） 学生参加によるボランティア活動など社会貢献活動の取り組みを推進する
4. 国際化（グローバル化）	
（9） 国際化に関する目標	（9） 国際化に関する目標を達成するための計画
・海外提携大学を中心に学生の交流の推進 ・国際的な共同研究の促進と研究成果の海外への積極的発信 などにより、国際交流の活性化を図り、教育研究の機能強化を目指す	1） 本学の教育方針である「グローバル社会に対応した人材を育成する」に基づき、国際的視野を有し協働できる人材育成の更なる推進及びそのための教育交流事業を充実する ・学生の交流の促進のための海外研修を推進する ・海外提携大学との継続的な交流を推進する 2） 国際的な共同研究を推進する ・海外の大学との共同研究を推進する ・国際シンポジウムを開催する
II. 業務運営の改善	
（10） 業務運営の改善に関する目標	（10） 業務運営の改善に関する目標を達成するための計画
・教職員のコンプライアンス意識の向上 ・ガバナンスコードの作成 ・適正な環境維持による教職員の心身の健康保持増進 ・防災体制の強化 ・感染防御体制の維持・強化 などにより、社会から信頼される本学の運営と安心安全な職場づくりを目指す	1） 教職員のコンプライアンス意識の定着を図り、法令及び内部規程などを遵守した運営を徹底する 2） 本学の教育・研究・社会貢献の機能向上を図り、社会的責任を全うするためガバナンスコードを作成する 3） 労働安全衛生法を遵守し適正な職場・作業環境を維持することにより、教職員の心身の健康保持増進を継続する ・働き方改革、子育て教職員の働きやすい職場の構築など教職員の健康面やワークライフバランスに配慮した施策を推進する 4） 防災体制の確認と強化を行う ・安否確認システム、防災マニュアルを作成する 5） 種々の感染症に対する学生・教職員の防御体制の維持・強化を行う
III. 新しい教育分野の開発	
（11） 新しい教育分野の開発に関する目標	（11） 新しい教育分野の開発に関する目標を達成するための計画
・本学における新しい教育分野の開発を目指す	1） 大学院の設置を検討する 2） 他の教育分野を検討する

【テーマ】 明るい未来を創る信頼の教育

		目標	主な目標指標	R7年度 達成率 (%)	R8年度 達成率 (%)	R9 年度 達成率 (%)	R10 年度 達成率 (%)	R11 年度 達成率 (%)
修文大学 健康栄養学部 管理栄養学科	1	学生募集	収容定員充足率 100%	80	85	90	95	100
	2	教育内容	国家試験合格率 100%	80	85	90	95	100
	3	教育システム	全学生 PC/タブレット授業	30	50	70	90	100
	4	学生学習支援	学生満足度 90%以上	80	90	100	100	100
	5	就職支援	就職率 90%以上	100	100	100	100	100
	6	研究内容	各教員論文数　年1報以上	60	70	80	90	100
	7	研究実施体制	科研費等獲得件数　年 3 件以上	60	70	80	90	100
	8	地域・社会貢献	セミナー開催　年 2 回以上	60	70	80	90	100
	9	国際化	海外研修参加　年1回以上	100	100	100	100	100
修文大学 看護学部 看護学科	1	学生募集	収容定員充足率 100%	100	100	100	100	100
	2	教育内容	国家試験合格率 100%	100	100	100	100	100
	3	教育システム	全学生 PC/タブレット授業	100	100	100	100	100
	4	学生学習支援	学生満足度 90%以上	80	90	100	100	100
	5	就職支援	就職率 90%以上	100	100	100	100	100
	6	研究内容	各教員論文数　年1報以上	60	70	80	90	100
	7	研究実施体制	科研費等獲得件数　年 3 件以上	60	70	80	90	100
	8	地域・社会貢献	セミナー開催　年 2 回以上	100	100	100	100	100
	9	国際化	海外研修参加　年1回以上	100	100	100	100	100
修文大学 医療科学部 臨床検査学科	1	学生募集	収容定員充足率 100%	80	85	90	95	100
	2	教育内容	国家試験合格率 100%	80	85	90	95	100
	3	教育システム	全学生 PC/タブレット授業	30	50	70	90	100
	4	学生学習支援	学生満足度 90%以上	60	70	80	90	100
	5	就職支援	就職率 90%以上	100	100	100	100	100
	6	研究内容	各教員論文数　年1報以上	60	70	80	90	100
	7	研究実施体制	科研費等獲得件数　年 3 件以上	60	70	80	90	100
	8	地域・社会貢献	セミナー開催　年 2 回以上	100	100	100	100	100
	9	国際化	海外研修参加　年1回以上	100	100	100	100	100
修文大学 短期大学部 生活文化学科	1	学生募集	収容定員充足率 100%	80	85	90	95	100
	2	教育内容	国家試験合格率・資格取得率 100%	100	100	100	100	100
	3	教育システム	全学生 PC/タブレット授業	30	50	70	90	100
	4	学生学習支援	学生満足度 90%以上	100	100	100	100	100
	5	就職支援	就職率 90%以上	100	100	100	100	100
	6	研究内容	各教員論文数　年1報以上	60	70	80	90	100
	7	研究実施体制	科研費等獲得件数　年 1 件以上	60	70	80	90	100
	8	地域・社会貢献	イベント開催　年 2 回以上	100	100	100	100	100
	9	国際化	海外研修参加　年1回以上	100	100	100	100	100
修文大学 短期大学部 幼児教育学科	1	学生募集	収容定員充足率 100%	80	85	90	95	100
	2	教育内容	資格取得率 100%	100	100	100	100	100
	3	教育システム	全学生 PC/タブレット授業	30	50	70	90	100
	4	学生学習支援	学生満足度 90%以上	100	100	100	100	100
	5	就職支援	就職率 90%以上	100	100	100	100	100
	6	研究内容	各教員論文数　年1報以上	60	70	80	90	100
	7	研究実施体制	科研費等獲得件数　年 1 件以上	60	70	80	90	100
	8	地域・社会貢献	イベント開催　年 2 回以上	100	100	100	100	100
	9	国際化	海外研修参加　年1回以上	100	100	100	100	100

＜学校法人修文学院＞

修文学院高等学校　中長期計画（令和７年度～令和 11 年度）

令和７年４月１日

【建学の精神】　国家・社会に貢献する人材の育成　　【学　院　訓】　推譲・明朗・強健
【教 育 目 標】　知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う

【グランドデザイン】　建学の精神に基づく教育の実践とともに、新たな息吹を吹き込む「“修文新時代”変革から安定と発展へ」　～「不易と流行」、「統一性と多様性」～

【目標領域１】　文武両道・全人教育（人間力の育成）
1 学院訓「推譲・明朗・強健」を人間力育成の不易の価値と位置づけ、あらゆる機会を通して、その具現化を図る
2 多様な生徒に対応できる「個別最適な学び」を実践する
3 規範意識や帰属意識を高めるために「統一性」を重視し全体指導などを実施する
4 人生 100 年時代に相応しい「学びの姿勢（どう学ぶか）」を身につけ、学びの土台をつくる
5 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
6 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

【目標領域２】　教育は人なり（教師力の向上）
1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド」を各教科で確立し、徹底させる
2 教員の授業力・指導力向上のため、現職教育・研修を計画的に実施する

【目標領域３】　地域に信頼される学校（地域連携・高大連携の充実）
1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
2 高大連携の充実
3 創立 83 年で培われた良き伝統・文化を継承する

【教育方針】　－文武両道・全人教育－

1 学　習　　学習に打ち込むことをとおして生きる力を養い、知的で豊かな人間性を育む
2 課外活動　　学校行事をとおして絆を深め、人間関係の大切さを学ぶ
　　部活動をとおしてくじけない心を育て、たくましい精神力を養う
3 社会性　　社会生活におけるルールや礼儀を体得し、人間としての品格を備える
　　地球環境について正しい認識を持ち、環境保全活動を実践する

【令和７年度(2025 年度)の重点目標】　～ 男女共学化、次の一歩へ ～

1 社会人となるための基本を身につけさせる　～「あ・じ・み・そ」の徹底～
2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる　～学力の保証～
3 進路実現の充実を図る　～進路指導の充実～
4 心の教育の充実・自立心を育てる　～心の学校～
5 防災教育を推進する　～安心・安全な学校～
6 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる　～開かれた学校～

【取組み姿勢】

○ 組織の機能を充分に発揮させて、円滑かつ効率的に教育活動を推進し、手ごたえのある成果が得られるように努力する
○ 生徒・保護者に各学科・分掌・各教科の目標を提示して周知を図り、高い教育成果が得られるように努力する
○ 生徒理解に努め正面から向き合うとともに、保護者の声を真摯に受け止め、信頼関係を構築する
○ コンプライアンスの意識と教育のプロとしての自覚をもち業務を遂行し、常に自己研鑽に励み教師力の向上に努力する
※ 就業規則の遵守、課・学科・教科の目標設定と提示、組織の有機的連携とコンセンサス、情報共有化、経費節減、学校評価の活用

《具体的な取組み》　【学校安全・ＰＴＡ・同窓会】

○ 南海トラフ地震に備えた防災教育・研修の実施、防災意識の醸成
○ 学校安全の充実、危機管理体制の構築
○ 文化祭等のＰＴＡ活動への支援
○ 男子卒業生加入に伴う同窓会活動の活性化、年１回以上の会報誌発行
○ BLEND を利用したアンケート実施、各方面へのフィードバック

《具体的な取組み》　【生徒指導】

○ 身だしなみ・見逃さない指導の徹底（規範意識の醸成）
○ 18 歳成人に伴う学校教育の在り方についての整理
○ スピード感を持った組織的な対応
○ 男女共学化並びに時代背景に即した生徒指導とその検証
○ 情報リテラシー教育（情報モラル育成、サイバー犯罪対策等）
○ 生徒との面談機会の増加、家庭との緊密な連携
○ いじめ防止基本方針に基づく取組み
○ 交通事故０件の実現 ～安全教育の充実～

《具体的な取組み》　【特別活動】

○ 学校行事を通して人間力と愛校心の育成
○ 生徒会を中心とした学校行事・委員会活動の企画・立案・運営
○ 男女共学化に伴う行事・委員会活動の検証

《具体的な取組み》　【教務・学習指導】

○ 生徒に実態に見合ったカリキュラム・教科書・副教材の検証・見直し
○ 「学びの姿勢(構え)」の構築
　➡ システム手帳・BLEND 学習記録の活用によるＰＤＣＡサイクルの徹底
○ 「学びの方法」の拡充
　➡ ＩＣＴ教育の推進と同時に、ＡＬ型・講義型・演習型授業の融合
○ 定期考査等の事前対策-本番-事後指導の徹底
○ 国･数･英における少人数制習熟度別クラス編成と実技科目によるチームティーチング
○ スタディサプリの更なる活用
○ 理系大学進学を見据えた数学・理科教育の充実・強化
○ 国公立大学・ＧＭＡＲＣＨ・関関同立等難関大学受験に耐えうる教科指導
○ 各種検定の積極的な挑戦と支援体制
○ 英語・国際教育の充実
　➡ ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジへの進学強化・夏季語学研修
　➡ シンガポール・マレーシア、台湾への修学旅行
　➡ ネイティブ教員による授業の拡大

《具体的な取組み》　【図書館利用】

○ 図書貸出数の更なる増加
○ 図書館利用を積極的に推進
○ 図書館環境の整備
○ 図書委員会活動の活性化

《具体的な取組み》　【進路指導】

○ 担任・学科と協力した進路面談の充実（情報の提供と共有）
○ 国公立大学・関東・関西・地元難関大学への積極的な挑戦とその支援
○ 大学入学共通テストを見据えた受験指導と進学補習の充実
○ 取得資格を活かした受験指導と支援
○ 修文大学との連携強化
○ 星城大学･椙山女学園大学･愛知医療学院大学等高大連携校への進学支援
○ 地元有力企業への求人開拓と更なる人材の育成

《具体的な取組み》　【部活動】

○ 自ら学ぶ姿勢を重視した部活動の制度確立
○ 健康・安全管理に配慮した適切な指導の実践
○ 積極的な情報発信・支援体制の確立
○ 部活動の地域移行と外部指導員招聘の模索

《具体的な取組み》　【広報活動】

○ 在校生・保護者・卒業生・中学生が活用しやすいホームページの作成
○ 在校生の満足度を高める情報発信
○ 情報発信・学校説明会等を通して「修文ファン」を創出
○ 私立学校の広報活動に関する研修会並びに他校広報活動の研究
○ 学校説明会等への更なる参加者数増加

あかるく　なかよく　たくましく

修文大学附属一宮幼稚園

令和7年度~11年度 修文大学附属一宮幼稚園教育推進プラン

令 和 ７ 年 ４ 月 １ 日

学校法人　修文学院　経営方針（Ｒ７～１１）

～ステークホルダーから信頼される教育機関～

※ステークホルダー
→利害関係者（園児・保護者・職員・地域住民）

【修文大学附属一宮幼稚園】

１．園児・保護者の満足度の向上
（１）豊かな体験を通し、生きる力の基礎を育成します
（２）信頼される幼稚園づくりをすすめます

２．職員エンゲージメントの向上
※エンゲージメント
→信頼関係、結びつき
（１）教職員がそれぞれの役割と責任を果たし、持ち味を発揮しながら、協力し合う組織づくりをすすめます
（２）園児たちと向き合うための、教職員の働き方改革をすすめます

３．地域社会への貢献
（１）幼児期の特性や遊びなどを通した学びや育ちのわかりやすい発信をすすめます

４．ＤＸによる生産性向上と新しい価値の創出
※ＤＸ
→デジタルトランスフォーメーション；デジタル技術を活用して、業務プロセスや組織、文化などを変革し、競争力の優位性を確立する取り組み
（１）幼稚園運営におけるＩＣＴ化の推進につとめます
（２）ＩＣＴを教育活動に効果的に取り入れ、豊かな教育活動をすすめます

５．財政基盤の確立
（１）園児の確保につとめます
（２）予算の適切で効果的な執行につとめます

本園教育の基盤・特色ある活動

- 自然豊かで広い園庭
- 基本的な生活習慣の育成
- 表現活動、造形活動、運動あそびの充実
- 特色ある行事
- 栽培収穫体験
- 高校・大学・短大との連携
- 安心ある食育
- 様々な遊具
- ＩＣＴ化の推進

Ⅰ　基本理念（教育目標および教育方針）

教育目標は、幼児期にふさわしい自発的な活動としての遊びや生活など、様々な豊かな体験を通して、園児一人一人の可能性やよさを引き出し、育て、生きる力の基礎を養い、未来を拓いていく園児を育てることです。そのために必要となるのは、「考え表現する力」「豊かな心」「健やかな体」です。幼稚園の集団生活の中で、この３つを相互に関連付けて育てていくことが大切です。また、これらの力の育成の基盤として、家庭や地域と連携・協働しながら「信頼される幼稚園づくり」を進める必要があります。そのためには、教職員が「あかるくなかよく　たくましく」を合言葉に、園児一人一人を大切にしながら、それぞれの役割と責任を果たし、持ち味を発揮し、協力し合う組織づくりを進めるとともに、教職員のワークライフバランスを図る取り組みを進めていくことが肝要です。その他にも、地域社会への貢献、ＤＸによる生産性の向上などの取り組みも大切です。

そこで、めざす園児像を『未来を拓いていく園児（生きる力の基礎を身につけた園児)』とし、その園児の育成のために、令和７年度から１１年度の「修文大学附属一宮幼稚園教育推進プラン」を策定しました。

このプランをもとに、具体的な取り組みを示し、全職員で取り組み、評価を加えながら、その実現をめざします。

Ⅱ　めざす園児像

「未来を拓いていく園児（生きる力の基礎を身につけた園児）

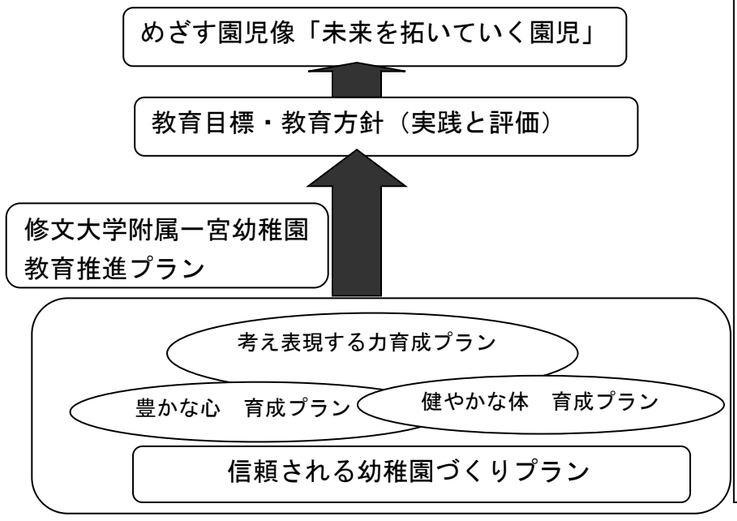
「未来を拓いていく園児（生きる力の基礎を身につけた園児）とは

		≪具体的な取り組み　例≫
考え表現する力を身につけた園児	**考え表現する力　育成プラン**	・造形活動や音楽活動などの表現活動 ・文字や数字に関心を持つ指導　等
豊かな心をもつ園児	**豊かな心　育成プラン**	・あいさつの励行　・特色ある行事 ・自然との関わり　・栽培収穫体験　等
健やかな体を備えた園児	**健やかな体　育成プラン**	・外遊びの励行、運動遊び、運動会 ・基本的な生活習慣　・給食指導　等

未来を拓いていく園児を育成するための基盤づくり

信頼される幼稚園づくり　プラン

- 安全、安心な幼稚園づくり
- 魅力あふれる、楽しい幼稚園づくり
- 開かれた幼稚園づくり
- 職員エンゲージメントの向上（教職員のワークライフバランスを図る取り組みなど）
- 地域社会への貢献
- ＤＸによる生産性向上と新しい価値の創出
- 財政基盤の確立　等



「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿（幼稚園教育要領）」

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然とのかかわり・生命尊重
8. 数量や図形、標識や、文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現